

金未 33.

746490

一一九

## 元海軍軍屬未復員者調査票

支派 は道元船名	身分 氏	名	生年月日	本籍 縣市町字	現籍 縣市町字
留守堵當者 自係	機械 氏	名	現住 縣市	所	

## 家族の承知されたる情況

職 名	司政官、機械、等手工具、船長、甲板目役等の別を記入して下さい。	内地使用	内地出発年月日、下かりますなら前がわ場所を記入して下さい。
出志類、他の徵用、現地採用又は徵用年月日及部隊名	船員は船名及船主	船員は船名及船主	船員は船名及船主
場所勤務の部隊名及	差出日附へ 年月日 受領年月日へ 年月日 検閱者印へ	部隊符号へ 年月日 年月日 内容	家族選受領の情況と取扱かつてゐる種類部を記入して下さい。
本人からの最後の手紙に記いて御記入下さい			一、部隊長から何とか通じるがありますか。二、船員から何とか通じるがありますか。三、其の他のどちら何とか通じましたか。四、其の他の誰か通じましたか。五、其の他の人に就いて参考になることを書いて下さい。

## 歸還者からの情報 (歸還者の方は本欄に未処理者個人に対するごとに自分の置かれの状況を記入して下さい)

未処理者個人に対する情報 情報提供者 部隊身分氏	同右現住所	帰還者の風としていた部隊の情報 この欄には所属部隊の行動、没處状況(艦船事故ならその状況)を詳しく書いて下さい。 (特に場所、年月日を強調しない様にして下さい)
入た人たから本人へ如何とは何處で何時でそれをお聞きなさいとお話し下さい。本個に記し本欄に記入して下さい。	船舶着いたらその状況を本欄に記入して下さい。い名を死亡記入して下さい。	死亡因 死亡年月日 死亡の場所
行方不明ならばその状況を記入して下さい。	原因 年月日 場所	
記入する他に本人の消息をよき方の住所と氏名を記入して下さい。		

備考

昭和十九年五月廿八日付にて、此を以て終了す。

大日本帝國

死後者一類

卷之三

新編卷之四

入國年月  
一九八

官學

卷之三

卷一百一十五

詩序大摘要

歲次（癸卯）年五月

卷之三

卷之三

卷之二

卷之三

昭和二年五月二十三日

申告者

本經地  
理住所

右之令

所屬縣  
氏

入籍登記

支那事務局

(一) 本駒音ハ深徹又ハ義高取扱者等ニ於テ営地方保良局人取扱委宛  
通報ニ非ズト認ムルモノミニ付記致ス  
(二) 同府営人ハ勿論他府営人等ニ記載ス  
同府営人ハ勿論他府営人等ニ記載ス  
人ヨリアル迄國ニ於テ出深得ル故リ詳細ニ記載ス  
先  
英市  
キテ承知シタル事項ハ各當路行ニ相手方ヲ記載ス

営地方復興局人取扱委宛

死後者謂之

木

卷之三

十七

五

住

角

六

居

三

卷二

10

卷八

内

卷之三

廿七

勤務概要 飛行機整備

嘉慶丙午歲夏月  
賜和于午四日

病名又曰受傷剖伍全兵

卷之八

福井縣

死亡年月日 病死	昭和二十一年四月二日午前
死亡時の状況 死後傷病の状況	多傷病へ院直ケニ元シテ
右之通り承知して申ますから申告致します	
昭和二十一年十二月十五日	
申告者入籍番号	
本籍地	
現住所	同上
所属部隊	比島派遣隊
成第	五五七部隊
等級	陸軍士官
姓名	

備考

一木調書は死没者の身上關係一切を處理するものでありますから、便宜に且つ詳細に記入して下さい。

二他人から聞いて承知した事項更に他参考資料としての旨末尾餘日に記入して下さい。

127-10

戰死證明書

本多猪四郎

右ノ者 我馬ガリメノ戦死ニ於テ戰死也  
下ト 證明ス

昭和二年一月廿一日

保證人

保證人

右合

保證人

年月日  
平成二年一月廿一日

21715 公元

287

卷之三

卷之三

裸 布 劍

本居宣長著「日本風俗圖志」卷之二十一  
「近江國」

死没者調書

449905

本籍地	会右
現住所	軍事テニ 開拓地三五番地
所属部隊	軍事テニ 開拓地三五番地
入團年月日	昭和十九年七月十五日
官等級	上士水兵
生年月日	氏名
内地移出年月日	昭和十九年十月
内地到着年月日	昭和十九年十一月二十日
勤務概要	レガスピーリ着岸之傳令二枚 ノルマニラ着立月日 前線歩哨トシテ勤務ス
疾病年月日	一
漏右八受伤部位	一
楚漏食道又戦死時、狀況	四月一日午後六時歩哨勤務中四月二日未正時卒死地上に散逸死
死年月日時刻	昭和二十年四月二日午後三時卒死
死因	レガスピーリ九高地

右申告文

昭和二十一年五月三日

申告者	本籍地	理番所二之
現住地	本籍地	理番所二之
所屬部隊	理番所二之	理番所二之

入籍番號  
陸軍水兵長

民石

名

豐國

備考

- (一) 本調書ハ部隊長又ハ残務取扱着寄ニ於テ吳地方侵襲局人事部長先通報ニリハダト認ムルモノノミ付記載ス。
- (二) 吳鎮在籍、特務士官准士官千士官次付記載ス。
- (三) 同府縣人勿論他府縣出身者ニ就テ記載ス。
- (四) 知得シル範囲ニ於テ出來得限リ詳細記載ス。
- (五) 他人ヨリ聞キテ承知シタル事項、各當該欄ニ相手方ヲ記載ス。
- (六) 送付先

吳市

吳地方侵襲局人事部長宛

卷之三

貴人消息驛至嘉慶丙子一月  
右所地方世間都道一復貴耳



書		表	表	表	表	表	表
同	同	同	同	同	同	同	同
子 聖	(林)	同	右	同	右	三〇四二八 回	右
無 少 財	(林)	同	右	同	右	三〇四二九 回	右
				三〇四三〇 回	右	三〇四三一 回	右

(参考)

氏は三十二特種[ ]取の医師（舊[ ]院）に就していたが此の医師は此を主體とした混血部族であつた。

四月一日レガスビーに敵上陸。水際陣地の[ ]隊（[ ]隊少尉）は全滅し敵は「ダラガ」山中に布陣してゐる[ ]隊、[ ]隊（[ ]隊少尉）・[ ]隊・[ ]隊（[ ]兵曹長）・[ ]隊・[ ]隊（[ ]隊少尉）に對し攻撃の要點を向け砲撃が展開された。然し四月四日「ダラガ」陣地破れ生存者は電撃出の[ ]部隊本部に全員以被斬。空襲陣地に率り四月二十八日敵空降隊より軍人工員一五〇〇名「ヤヨン」山に移動其の後四散した。

氏は前述の[ ]上古、[ ]一毛、[ ]水長と其役行動と共にしたが三名共死後一人となり六月末勞務失職で勤けぬ處を米軍にて容された。

四月終戦後空挺部隊で一軍であつた水長[ ]（ロレンヒドール）を、[ ]因縁の病魔死の言

たると「コンドーム」商の女の書人の消息は、彼が知つたものである。

高	年	姓	兵	傳	房	住	廣
三十	物根	水	長	一	一	一	一
三十	物根	水	長	一	一	一	一
三十	物根	水	長	一	一	一	一
三十	物根	水	長	一	一	一	一

西鉄丸一時荷物積入をついては既に解消した  
人知つてゐる

水長おと

一勝一

金骨毛

無類人、南西方面操縦機器整備班、二級人

二級人、(在外部船頭座席)、吳復人

新羅音、前出世、大慶世、和歌山世

第百三十一海軍五作部觀地報告書

總務課監理處

年月日

(等級)

四三

本籍地

現住地  
姓名

略歷

採用前

西一八·一〇·四

新嘉坡

採用年月日

英皇御賜官軍正三級 謹啟于光緒廿九年十一月一日(採用)

給事(正給)

英皇御賜官軍正三級 謹啟于光緒廿九年十一月一日(採用)

四時

英皇御賜官軍正三級 謹啟于光緒廿九年十一月一日(採用)

歸國

英皇御賜官軍正三級 謹啟于光緒廿九年十一月一日(採用)

場所

比持羅北村(ルソニオナガホナ)

證明

相

致採用者

相

採用者

之一〇三三序號五七

或效以身、深感

學者、限事、其

給與

現地、於今、用以

1567  
8882  
記博

-2-35-D

6240

21-9-15云来

死沒者調書

221

38589

本籍地	所	全	右						
理住	姓	名							
所屬 部隊	第三十二海軍特別服裝隊								
入閣年月	昭和十一年	月	日	役種	現役	役種	兵種	生年	
左等級	達爾立夫長	氏	名						
内地連絡船年月日	昭和十九年五月一日	出生年月日							
歸國年月日									
勤務機要									
勞病(足傷)	昭和廿二年五月	昭和廿二年五月廿四日	原因						
病名(重傷部位)	マイルス病								
營救(送醫)	大連港	大連港	三日就醫	寒害	死亡				
至死時刻及場所	昭和二十一年六月廿一	時	比基尼島	上空	高	アムダミン			
右中告人									
本籍地	昭和二十一年八月一日	月	日						
理住所									

備考

- （一）本調書曰、都長不爲務、在假有尊卑地才、雖爲人事、却長未通歲  
々半、處任者、知得シテ、ノト、總ムルニシニ、候也。故謂之大  
（二）吳漢在冀、持務吉慶、君士唐下主賓次二分祀許、大  
國用亦昇人勿辦、他存奉主月祭ニ、葬ナミを、記詳、大  
（四）若得ニル範圍ニ於ア、始末得ル限、祥細一記詳、大  
（五）世人号嘲キテ承知シテ、卒事墳、名爲故謂ニ相于方ヲ、記詳、大

卷之四

22

卷之三

四

卷之三

孫  
廟  
前

略  
平

卷之四

洪武十九年正月廿四日人報南  
京太祖皇帝御批

卷之三

四

明故鄉

卷之三

卷之三

卷之二

卷之三

四

申 告 書

申 告 者

所 局

奉持走持紀 等級二

苦 氏 名

知得シタ被戦者、怪死不回者、逃亡者等ノ情況

本 隊

氏 名

入 隊

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

登 錄

名

臧通川集卷之三

卷之三

72-18

卷之三

三葉草

卷之三

卷之三

國朝詩

卷之三

卷之四

卷之三

四庫全書

卷之三

戰死

卷之三

殘  
理學者

卷之三

卷之三

卷之三

環也。游于海內，則見其廣矣；游于九陰，則見其深矣。

卷之三

古文

45 现代文

169